

愛飲者インタビュー

重度の膠原病が

(結節性多発動脈炎)

SODと薬の併用で

劇的に好転

丹羽療法レポート

寒くなると要注意

増加傾向の心筋梗塞とは

発行元 日本SOD研究会 宮城
住所 〒158-0094
東京都世田谷区
玉川1-15-2 B棟 2802
TEL. 03-5787-3498
<http://www.SOD-jpn.org/>SOD愛飲者
インタビュー

重度の膠原病(結節性多発動脈炎)が

SODと薬の併用で劇的に好転

埼玉県 飯田 智さん(75歳)

1か月入院も原因不明 症状はどんどん悪化

埼玉県の川口市、閑静な住宅街の一角、車を2台停めてもまだ余裕のあるお庭つきの一戸建てに弟さんと生活していらつしやる飯田さん。日本の高度経済成長を支えた世代で、現在75歳。肌の色艶も良く、お話しもしっかりとしていて、ご病気だったことなどみじんも感じさせません。若い時は仕事一筋。大きな病気もなく、リタイアまでは健康に過ごしてきたそうです。

今回はそんな飯田さんのお宅におじゃましてお話をうかがいまし

た。3歳違いの弟さんも同席してくださいました。

「最初は、70になる前、急性の心筋梗塞になったんです。カテーテル治療をして一命をとりとめました。この時は、いつまでも元気というわけにはいかないということを感じましたね。その時にけっこうたくさん薬を出されてね、今も飲んでいますが、こんなに薬を飲んでいいのだろうかとは思いました」

男の人は、お仕事をリタイアすると、急に老け込むという話を聞きます。飯田さんも多分にそうだったのかもしれない。仕事をして

いたときは食事も規則正しく食べていたのに、リタイアすると食べたり食べなかつたり、不規則になっていたとか。さらに用がなければ外に出ないから、おのずと運動不足になっていました。

そんなことを気にしながらも心筋梗塞から数年後、2012年5月。新緑まったただなかのさわやかな季節でした。

「すぐ寝汗をかくんですよ。もちろん、身体もだるく、食欲がなくなっていくた」

間近で見ていた弟さんも

「急に具合が悪くなっていった。顔色なんか鉛色だし、体重も10キロくらい、一気に痩せたよね」

始めは近所の病院で診てもらい、血液検査をかなり細かくしたそうです。しかし、原因が分からず、その間に体調はどんどん悪化していききました。そして、もう立ってられないくらいになってから大きな病院に緊急入院しました。

「1か月余り入院したんですが、も

う気分が悪くて、病院食も受け付けませんでした。点滴で生きていたんですよ」

それでも原因や病名は判明しなかったそうです。

「病名もわからないまま入院していても仕方ないし、なんかもう半ばあきらめていたんです。それくらいやる気も、生きる気力もなくなっていました。何も考えられなかった」

自身であきらめ

年内は持たないかも

今の病院は、保険の点数の関係上、病名も判明しない患者さんで1か月以上は入院させてくれないと聞きます。やはり、飯田さんも病名不明のまま、1か月で退院することになりました。その時に、一人の医師から、

「ひょっとしたら膠原病かもしれないから、専門の病院で診てもらったほうがいい」

と言われたのです。

帰ってきた兄を見た弟さんは、

「驚きましたよ。だってね、7月の暑い時に、帰ってきて、寒い寒いと言って冬のジャンパーを着るんですよ。ガリガリに痩せて、ああ、これはただ事じゃないと思います」

すぐに紹介されたりウマチ膠原病の専門クリニックに行きました。そのクリニックで、ようやく膠原病の一種、結節性多発動脈炎と診断されたのです。

この病気は、難病情報センターによると、血管の動脈壁に炎症が出る疾患だそうです。動脈は全身の臓器に分布するので、多彩な臓器症状が出るとか。発症原因は不明ですが、50代の男性に多いそうです。体重減少、筋肉、関節痛、しびれ、皮膚潰瘍、腎機能悪化、腹痛、下血、脳出血、脳梗塞、高血圧などの疾患が表れるとか。治療法は、最初、大量のステロイドを投与し、その後、少しずつ減らし、1ヵ月後に免疫抑制剤のサイクロ

フォスファミドの点滴を4〜6回

繰り返しそうです。腎機能が低下したら、これに血液透析をするとか。また、腸閉塞などでは開腹手術にいたるそうです。そうしてどのような経過をたどるかというところ、早期に診断し治療をしないと非常に予後の悪い疾患です」と記されています。また、早期発見早期治療では完全に治癒する症例も存在します」と、がんに関する西洋医療の見地と非常に酷似したあいまいな記載がされていました。

いずれにしても、この時の飯田さんの症状から、決して早期発見早期治療ではなかったはず。予断を許さない重症の状態だったと思われる。

それは検査の結果が如実に物語っていました。自己免疫疾患(本来なら、免疫とは細菌やウイルスなどから自分自身を守ってくれる大切な役割をしているのですが、免疫疾患にかかると、免疫系が自分の体を攻撃するようになり、全

【表1】血液検査結果表

※飯田さんの検査数値

項目名	基準範囲内	2012年07月09日	2012年08月09日	2015年01月15日
CRP 定量	0 - 0.3	11.66	0.01	0.03
白血球数	3300 - 9000	10200	11100	7100
赤血球数	430 - 570	354	398	443
ヘモグロビン	13.5 - 17.5	10.2	11.9	13.8
ヘマトグリット	39.7 - 52.4	33.1	38	43.7
血沈 60 分値	0 - 10	98	14	8

身にさまざまな炎症を引き起こします。難病情報センターHPより）を表す数値、MPO-ANCA（抗好中球細胞質抗体）が平常で3.5未満であるはずなのですが、なんと

飯田さんは196もあったのです。他にも、体内に炎症があったり、組織の一部が壊れていたりすることを示すCRP定量が、平常で0.3のところなのに11.66もの高い数値を示していました。さらに炎症を伴う病気の有無を調べる赤血球沈降速度血沈60分値の値が、平常で0.10のところ、98もありました。（表1検査結果詳細参照）

「この数値を見た先生も、これは異常です、と驚き、これだけ悪いと大病院のような専門の大きな病院に行ったほうがいい。紹介状を書くからすぐに行きなさい、と言われたんです。でもね、そんなところに行って、抗がん剤で苦しむのはいやですね。実は私の兄が肺がんで亡くなっているんです。その時に抗がん剤の恐ろしさをいやというほど目の当たりにしました。だから、何をやってもだめなら、家にいたほうがいいと思っただけです。半ばあきらめていましたね。ステロイドの薬でなんとかしんど

いのを抑えてもらって、家に帰ってきましたよ」

飯田さんが抗がん剤はいやだと思っていたのには、もうひとつ理由がありました。それは、腰痛などで通っていた整骨院の先生の話でした。その先生は、とにかくケミカルな薬には必ず副作用があるから一切飲むな、抗がん剤に至っては毒薬だから、絶対にダメ、何の効果もないどころか悪くなると言っていたのです。そして、腰痛のときからSODを勧めていて、実は、飯田さんもひと箱購入していたのでした。

「病院から大量の薬をもらったのはいいけど、こんなのを本当に飲むべきなのかどうかわからなかったので、整骨院の先生に薬ごと持って行って聞いたんです。そうしたら、さすがに医学的なことだから、自分では判断できないから、自分が尊敬する丹羽先生に聞いてみると、それまでは薬と併用してSODを飲んだほうがいいと言われた

んです」

そうしてSODを飲み始めたのが病名が判明した直後、7月中旬のことでした。

毎日15包のSOD 20日間で数値が変化

2012年夏、この時、確かに、SOD研究会の会報編集部宛に、整骨院の先生から結節性多発性動脈炎の質問をいただきました。

編集部はその質問を持って新横浜に診療にいらしていた丹羽先生にアドバイスをいただきました。そして会報163号に掲載したのです。その質問のなかにあった患者さんが今回お会いして話を伺った飯田さんだったのです。何か不思議な縁を感じます。

ここに、会報163号の記事からの抜粋を紹介しましょう。

接骨院の先生からの質問で、結節性多発性動脈炎で、イムラン50ミリ、プレドニン5ミリを1日2

SODと丹羽先生には感謝です」

たまに行う心筋梗塞の検査も、すべて異常なしだとか。今では病院から出される薬も、心臓のお薬と、ステロイドだけ。ステロイドも最初は5ミリだったプレドニゾロンが1ミリになり、丹羽先生にうかがったところ、それくらいなら害にも薬にもならないとのことでした。

あれ以来、健康には気を付けているという飯田さん。

「でもね、一日に2万歩とか歩いちゃうんですよ。やりすぎですよね」

とあきれられる弟さん。対する兄は

「でもさ、こんな病気で2万歩も歩く人いないよ。自分でもすごいと思いますよ」

笑顔が絶えない仲のいいご兄弟です。

それにしても、3年前に会報にご質問いただいたことが、回りまわってこのような形でお会いできたこと、ほんのわずかですが会報がお役にたったことを実感できて幸いです。改めて、会報作りに誠心誠意を込めたいと思います。

また、このように丹羽先生に直接会えないけれど、聞きたいこと等がありましたら、遠慮なく会報にお申し付けください。

SOD様作用食品 体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒158-0094 東京都 世田谷区
玉川1-15-2 B棟2802
日本SOD研究会 宮城宛
TEL 03-5787-3498
までご一報下さい。



丹羽療法レポート

寒くなると要注意

増加傾向の心筋梗塞とは

秋から冬にかけて増える疾患、

と聞くとインフルエンザのような

感染症を真っ先に思い浮かべます

が、実は、もっと気になければい

けません。事実、日本人の死因の第

2位は、心疾患（2014年厚生

労働省発表）。心疾患のなかで最も

多いのが、心筋梗塞や狭心症など

に代表される疾患だそうです。心

筋梗塞の発症は早朝に多く、また

冬場に多いことが知られています。

冬場に多い理由は、暖かい室内と

寒い室外、同じ室内でも寒い脱衣

場と暖かい浴室など温度差で血圧

に大きな変動を生じ、心臓・血管

に負担をかけるからと考えられて

います（ヒートショックといいま

す）。

国立循環器病センターによる

と、わが国の心筋梗塞の発症数

は、魚食から肉食へ急速に食生

活の西洋化が進んだことや、人口

の高齢化によって増加傾向にある
 そうです。1979年から30年間
 の調査では、心筋梗塞の発症数は
 1979年当時の4倍にも達して
 います。中年以上の男性では、特
 に肥満・高血圧・糖尿病・脂質異
 常がある場合は、注意しなければ
 ならない疾患だといっています。

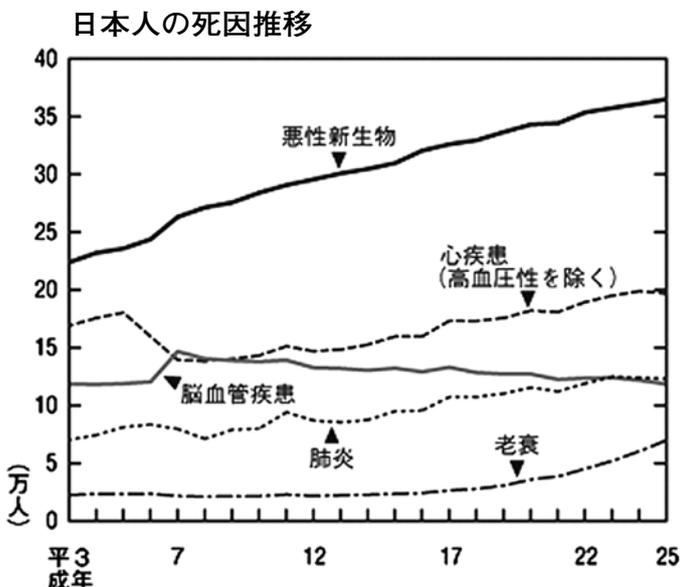
心臓の動きをつかさどる血管が取
 り囲んでいる。年齢とともにその
 血管の機能が低下し、傷つき、し
 なやかさも失われてきます。そう
 して血管の血の巡りが悪くなって、
 動脈硬化を起こす。そして血管が
 詰まると壊死が起こる、これが心
 筋梗塞です」

予防として気を付けないといけな

いことはどういふことでしょうか。

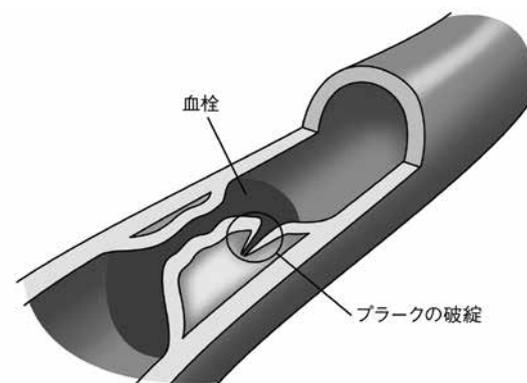
「これは最近、40代、50代にも増え
 ている。とくに太っている人、脂つ
 こいものが好きな人、運
 動不足でストレスの多い
 人などは要注意ですね。」

「これは最近、40代、50代にも増え
 ている。とくに太っている人、脂つ
 こいものが好きな人、運
 動不足でストレスの多い
 人などは要注意ですね。」



◆ 日本人の死因 ◆

- 第1位 悪性新生物 (がんなど)
 - 第2位 心疾患
 - 第3位 肺炎
 - 第4位 脳血管疾患
 - 第5位 老衰
- 2014年 厚生労働省調査



溜めないことです」

動脈硬化は、肌のシワやシミな
 どの老化現象と異なり、外からは
 わかりません。気づかないまま、
 動脈の壁にプラークと呼ばれるコ
 レステロールや脂質などが蓄積し、
 血液の流れが悪くなる結果、ある
 日、突然、狭心症や心筋梗塞といっ
 た重大な病気を引き起こすとい
 います。

先生は、揚げ物は目の前で揚げ
 ているもの、家でお母さんや奥さ
 んが揚げたものはいいけれど、厨
 房が見えない画一的なレストラン
 の揚げ物や、スーパーの惣菜など
 は要注意だといっています。

いちばんは気を付けないのはやっ
 ぱり食事。特に脂。酸化した脂が
 血管にへばりついて血管の通りを
 悪くするんです。病院に行くと、
 血液凝固阻止薬で血液をサラサラ
 にしたほうがいいと、よく聞くワー
 ファリンなど処方されるが、あれ
 は、いざというときに血が止まら
 なくなるから怖い。できれば食事
 や運動で血液の流れを良くしてあ
 げたほうがいい。和食中心にして、
 酸化した脂物は口にしないこと。
 そしていつもどんな病気にも予防
 は適度な運動と睡眠、ストレスを

◆丹羽先生診察ご希望の方は
 御紹介、御予約いたします。
 ※自由診療となります。
 丹羽メディカル研究所
 ☎ 0120 (731) 175
 もしくは
 日本SOD研究会
 ☎ 03 (5787) 3498
 まで お電話ください。

黒ゴマの驚くべき！ 健康効果



ゴマの優れた栄養成分の体内での働きについて

黒ゴマキャラクターのゴマっちです。
黒ゴマの健康効果についてお伝えします！

古くから、ゴマを食べると若々しく健康に過ごせるといわれてきました。このゴマの健康パワーの源といえるのが、ゴマに含まれる希少成分のゴマリグナン類、その主成分であるセサミンです。

今月は、ゴマの希少成分であるゴマリグナン類の健康効果についてレポートしていきたいと思います。

の食生活でゴマのパワーを振り入れていきたいところですよ。

ゴマ最大の、健康パワーの源であるゴマリグナンは、セサミン、セサモリン、セサモール、セサミノール、セサミノール配糖体などの成分によって構成されていて、そのなかでも多く存在するのがセサミンとセサモリンのふたつです。

このふたつの成分は、脂溶性で油に溶けています。セサミンは体内に入ってもすぐには活性化せずに、肝臓にたどり着くと肝臓の代謝を高め、酸化作用を発揮するようにするのが最大の特徴です。

もう一方のセサモリンはゴマ油が製造される過程で、高い酸化力をもつセサモールやセサミノールという成分に変化します。

セサミノール配糖体は水に溶ける水溶性で、こちらも体内に入ると腸内細菌の働きによって、セサミノールに変化して酸化作用を発揮するのです。このよ

うに、酸化作用のあるゴマリグ

ナン類ですが、実はそれぞれ単体では高い酸化力を持っているわけではなく、私たちの体内に入り、様々な要因によってはじめて活性化され、酸化力を発揮するところがゴマリグナンの最大の特徴なのです。あの小さな「ゴマ」粒に、わずか1%程という微量な含有量ですが、この「ゴマ」のパワーが凝縮されているのです。

つづく

1粒1%に秘められた「ゴマ」のパワー

小さな「ゴマ」粒の、わずか1%ほどしか含まれていない微量成分の「ゴマリグナン」。「ゴマリグナン類のひとつであるセサミンは、サプリメントとして多くの製品が販売されています。

リグナンという物質は植物の種子、茎、根などにも含まれていますが、「ゴマリグナン」はゴマだけにしか含まれていない特有な成分です。

これまでも、「ゴマ」の健康効果について「酸化作用」、「二日酔いの予防」、「老化防止」など様々

な健康効果をご紹介してきましたが、これら、健康効果の重要な役割を担っているのが、この「ゴマリグナン」です。

ゴマリグナンには酸化作用、肝機能向上、がん予防などの効果が期待できるといわれていますので、健康を維持していくためにも、日頃

ゴマリグナン類によって期待できる効果



乳酸菌発酵と特殊な加熱処理によって、セサミンを1包で約30mg摂取できるサプリメント、SODロイヤル黒胡麻。黒胡麻の栄養成分が凝縮されています。

